

山首上人さまご講演

忍^{にん}

辱^{にく}

あいて
相手に
もと
求め
すぎない



アカメモチ

施ほどこし合あってゆくと自然しぜんに堪忍かんにんできます

忍辱にんにく

「瞋しん恚に盛さかなる者ものには、忍辱にんにくの心こころを起おこさしめ」
(無量義經十功德品)
(むりやうぎきやうじくどくほん)

瞋恚しんにとは、よく腹立はらたつ人ひと、よく怒おこる人ひとのことです。

よく怒おこる人ひとは好すかれるでしようか。決して好すかれる人ひとではありません。

怒いかりの結果けっかは家庭かていが不和ふわとなり、病氣びやうきや災さい難なんに遭あうものになります。

怒いかりは、自分じぶんの境遇きやうぐうを地獄じごくの境遇きやうぐう、すなわ

ち苦くるしい境遇きやうぐうに追おい込んでしまふ、恐おそろし

い心遣こころづかいです。ことに家庭かていにあつては、お

互たがいに堪忍かんにんし合あわなければなりません。

怒おこつた後あとは、いつも後悔こうかいの種たねとなるばかり

であります。

Ⅱ 御開山上人御法話資料Ⅱ

瞋恚しんにも忍辱にんにくも耳慣みみなれない言葉ことばですが、瞋しん

恚には腹はらを立てること、忍辱にんにくは堪忍かんにんであります。なかなか難むずかしい言い方かたがあるものです。

世よの中なかにはいろいろな性質せいしつの人ひとがいます。

生まれつきガマン強い人もいれば、気が短くてすぐ怒る人もいます。

「怒る」ということについて、家の中のことを考えてみましょう。子どもに何か教えるようにする場合、時に叱ることは必要です。しかし、怒るとなると違います。怒ると叱るは似ているようで、実は根本的な違いがあります。叱る方は理性的ですからきちんとして筋道が立ちますが、怒る方は感情的ですから、訳のわからないことになることがあります。たとえば子どもをお風呂に入れようとします。最初は優しく入りなさいよと言いますが、遊ぶのに夢中な子はなかなか

か入りません。そこで二回目は「まだ入らないの」と口調が少しくなりつきます。それでも入らないと三回目には「まだ入らないの。そんなにいやならもう入らなくていい」と言い放ちます。それでもまだ入りません。ついに「どうしてお母さんの言うことが聞けないの」と怒り始めます。すると子どもは「さつき入らなくていいと言ったじゃない」と口答えします。こうなるともう、全く筋が通りません。支離滅裂になって、言わなくてもいいことまで言い始めて、母子は喧嘩をするしかありません。

怒った後「気持ち良かった」と思えるこ

とはまずありません。 どうして怒ってしまつたのだろうと後悔することの方が多
いものです。

御前様は、腹が立つてもその場ですぐに怒らないで、一日待って怒りなさいと言われ
ました。一日経つたらもうビールの栓を抜いて放
つておくのと同じで、気が抜けてしまひます。怒るにもタイミ
ングというものがある、カーッと頭に血がのぼつた
時すぐ怒らないと、気分は納まりません。一日経
つて気が抜けたらもう怒る意味もな
くなりますから、そう言われたのだと思ひ
ます。

「慈眼視衆生」と観世音菩薩普門品にあり
ます。観音さまは優しい目つきで人々を視
る、ということです。これは目の施し、顔
の施しとなります。こういう人のそばに
いると気持ちのいいものです。お母さんには
どうか「慈眼視衆生」で子どもに接して頂
きたいと思ひます。

腹を立てると罪障が出来ます。罪障は悪
い因縁となりますから、その結果、病氣や
災難に遭うことになります。

病氣は氣の病いと書くように、心が狭く
なり、イライラが募るとなりやすいもので

す。

少し前すこまえ、おなかの具合ぐあいが悪いので病院で診みてもらったら、胃いに穴あなが開あいていると言いわれました。突然とつぜんで驚おどろきましたと、言いつて来た人きひとがいました。その人は突然とつぜんと言いうわけですが、突然病氣とつぜんびやうきになることはありません。毎日毎日怒まいにちまいにちおこったり、イライラしたり、穴あなの開あくようなことを一生懸命いっしょうけんめいしてきたから、ようやくその結果けっかが出でたのです。誰だれのせいでもありません。堪忍かんにんのできない自分じぶんが招まねいたことなのです。

腹はらを立てると「地獄じごくの境遇きやうぐう」とも言いわれています。すぐ怒おこる人ひとには誰だれも近ちかづきたく

ありません。また、何かなにしてあげようかとは思おもつても、ひよつとして悪わるく取とられて怒おこられたらバカバカしいからやめよう、ということにもなりやすいものです。本人ほんにんは氣付きづいていなくても、わざと人ひとを遠とざけるような心遣こころづかいをしているのと同じです。助たすけてあげようという人ひとがそばに來きてくれませんか、寂さびしいことです。

堪忍かんにんにもいろいろな堪忍かんにんがあります。今は陽氣ようきのいい季節きせつですが、しばらくすると梅雨つゆとなり、連日雨れんじつあめが降り続つづきます。つい、うつとうしいなあ、という愚痴ぐちが出でやす

くなります。そしてその後には夏が来て、

今度は「暑いなあ」と文句を言います。そ

ういう自然界の出来事をガマンするのも大

事な堪忍です。杉山先生は「暑い」とか

「寒い」という、愚痴になりそうなことを

一切言われなかったとお聞きしています。

「家庭にあつてはお互いに堪忍し合わなけ

ればならない」

家の中はお互いに施し合うことが基本で

す。その施しの気持ち、相手を思いやる心

がなくなると家庭はうまくゆきません。

施し合うと言っても、お金や物を出し合

うことだけではありません。そういうこと

もありますが、それ以上に家族が心を通い

合わせ、思いやってゆくことが大事です。

基本的なことを言うのと、お父さんはお父

さんらしくきちんと働き、お母さんはお母

さんらしくきちんと家事をするというよう

に、普通のことを普通にすることが施しと

なるのです。そのルールが守られていれば

家の中はスムーズにゆきますが、誰かが自

分の役割を果たさなくなるとギクシャクし

てきます。

この世界はやはり、施し合いと同時に感

謝の心を持ってゆくことが基本になると思

います。それを壊こわしてしまう瞋しん恚には、やめなければいけません。

堪かん忍にん、堪かん忍にん〃と、そのことばかりに気きを取とられるのではなく、〃こうして生いきていられるのはありがたいことだ〃という感謝かんしゃが持もてると、自然しぜんに堪かん忍にんできるようになると思おもいます。しかし人間にんげんはどうしても、ありがたいことより自分じぶんに無ないもの、思おもうようにならないという悪いことの方が先さきに立たつものですから、なかなか〃ありがたい〃という心こころになり切きれません。

ありがたいことは外そとにあるのではなく、ありま
せん。こうして生いきていられることがあり

がたいのです。それなのに人間にんげんは〃これはありがたいけど、これがだめだ〃という思おもいから、どうしても抜ぬけ切きれません。

人生じんせい本ほん当とうは、一つありがたいことがあればそれでいいのです。

堪かん忍にんしにくいことの一つに、お釈しゃ迦かさまのおっしゃる「四し苦く八は苦く」の中なかの「怨おん憎ぞう会え苦く」があげられます。〃怨うらみ、憎にくむ人ひとに会あわなければならぬ〃という苦くるしみです。

いやな人ひとに会あうと腹はらが立たちますし、それ以上いじょうに、会あいたくありません。しかし世よの中なかにはいろいろな人ひとがいて〃嫌きらいな人ひとに出で会あったことがない〃と言いった人ひとがいます。

アメリカの俳優で、コラムニストでもあったウィル・ロジャースという人です。アメリカインディアンの血を引いている人で、人に出会った時はインディアン流に人を見る。というようなことを言われています。普通私共は、相手の人を第一印象で、いい人か悪い人か、好きな人か嫌いな人かを判断しやすいのですが、インディアン流は、第一印象で決めないでその人を後ろからも横からも見て判断するのだそうです。たしかに人間は一枚板ではありませんから、いろいろな面から見ることが大事です。そして、どんな人でもいい所が必ずある

から、それを見つけることが大事だ。とも言われています。私のことを考えても、悪い面だけを見られたら悪い人間になってしまいますが、いい面を見てもうえたらいい人になりますから、ありがたいことです。この人が、相手に求めすぎない。ということ言われています。なかなかいい言葉です。私共やはり、欲が深すぎるのです。相手がいい人ならいい人のように、あれもこれもと求めがちです。しかし、あまり求めすぎると今度は、思うようにならないことに出くわして腹を立てるのです。

奥さんが美人なら、もうそれでいいので
す。美人だけど料理が下手 などと言っ
てはいけません。

主人が健康ならそれでいいのです。体
は丈夫だけど稼ぎが悪い などと思つては
いけません。

子どもが元気でいればそれでいいのです。

元気はいいけど成績が悪い というよう
なことは言わないのです。

一つのこと満足して、ありがたいと
喜ぶことができたなら、無理に歯をくいしば
って堪忍しようと思わなくても、自然に出
来てゆくだろうと思います。